初の両市合同就職フェア

60事業所が参加

4高校140人が面談

初めて両市合同で行われた会場には60事業所のブースが並んだ

高校生を対象にした「企業紹介フェア」が26日、丹波篠山総合スポーツセンターで行われ、篠山産業、篠山東雲、氷上、氷上西の主に3年生約140人が参加。丹波地域60事業所のブースを巡り、熱心に会社や商品などの説明を聞き、面談した。丹波篠山市、丹波市合同の開催は初めて。

地元就職を推進する目的で、両市と、県、商工会、高校などで構成する丹波地域人材確保協議会が主催した。

製造業、建設業、サービス業、金融業、医療・福祉関連の事業所が参加。生徒たちは事前に希望していた3社のブースを回った後、関心のあるさらに2社のブースを回り、担当者から会社や製品、商品などの説明を受けた。

篠山産業高校進路指導部の　　部長によると、今年はメーカーを中心に新規の企業からの問い合わせも増えており、さらなる売り手市場になると見込む一方で、昨年度から進学希望者が就職希望者を上回る傾向にある。6月から面接に備え、模擬面接を始める。

事業所人事担当者の説明を熱心に聞く高校生たち
＝丹波篠山市郡家で

採用選考日程は昨年度と同時期で、6月1日にハローワークによる求人申込書の受け付けが始まる。7月1日、企業が学校への求人申し込みと訪問を開始。9月5日、学校が企業への応募書類の提出を開始。同16日、企業が選考を始める。

ハローワーク柏原によると、昨年度の高校生の就職希望率は2020年度比で5・9ポイント減の20・1%。就職決定者数は65人減の135人。丹波管内就職者数は52人減の74人。一方、求人倍率はおよそ1・5ポイント増の3・53倍だった。

2023年4月30日
丹波新聞